

## カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 (こども学科)

○令和7年度の前期、後期、通年科目についての教育課程の適切性の検証結果は次のとおりである。  
(検証事項：内容の適切性、隣接科目との内容の重複、開講時期、GIOとの整合性、カリキュラムの問題点等)

### 【成果・できていること】

- ・多くの科目で、内容の適切性や開講時期、学科の教育目標との整合性について肯定的に評価されている。大きな問題はなく、教育課程は概ね適切であると考えられる。
- ・半期毎に、学科の全教員が参加する教職課程検討委員会を開催し、学科の教育課程の見直しと課題の共有化、適切性の検証を組織的・継続的に進めている。
- ・学科の主要な教育活動となる、保育実習、教育実習に関しては、原則、毎回の学科会において指導内容を共有するとともに、課題について検討する時間を設けている。近年は、学生に無用な混乱が生じず、安心して実習に臨むことができるよう、実習の手引きや記録、事務手続きや書類の見直し・共通化を進めるとともに、実習の中止に至る基準の明文化などの取り組みを進め、指導内容の公平性の確保と質の改善に努めることができている。
- ・少人数教育という本学の特性を生かし、各科目において、グループ発表、模擬保育、指導案の作成など、実践的・主体的な学習が多く取り入れられている。

### 【課題・できていないこと】

- ・近年、必修科目以外の科目の履修者が大幅に減少しており、課題となっている。教育課程全体における選択科目の位置づけや開講時期の適切性、教育課程の過密化の現状と課題などについて、検証を進めていく必要がある。

### 【その他・今後の検討事項等】

- ・「保育・教職実践演習」について、少人数でのグループ活動などの実践的な活動を通じた主体的な学習内容となっている。今後は、2年間の「学びの軌跡の集大成」という科目の位置づけにより適した形へと改善できるよう、授業計画を検討していく予定である。
- ・現在、国の方で、保育士・幼稚園教諭の養成課程の見直しに向けた検討が進められ、カリキュラム改正が近年中になされる予定である。社会の動向を受け、カリキュラムの改正に適切に対応できるよう、制度改正の動向を適切に把握するとともに、現在の教育課程の課題や改善点について整理を進め、準備していく必要がある。